

MIC-AP NEWSLETTER

Newsletter of MIC-AP

平成27年度 March, 2016

CONTENTS

- 今年度事業の概要 ●アクティブ・ラーニング シンポジウム
- ワーキンググループ活動ハイライト:e-ポートフォリオの導入

発行: 宮崎国際大学 e-ポートフォリオセンター
〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
TEL.0985-85-5931(代) FAX.0985-84-3396
URL: <http://www.mic.ac.jp/>

平成27年度事業の概要

平成26年度に大学改革推進事業「大学教育再生加速プログラム（AP）」において、テーマⅠ・Ⅱの取組みとして採択された本学のAP事業は、2年目を向かえました。今年度は各ワーキンググループが、昨年度に取組み始めた活動や研究の幅を広めて、アクティブ・ラーニングの成果の可視化の足がかりとしました。また新入生全員向けにタブレットが貸出され、同時にe-ポートフォリオ・システムが構築されました。9月にはe-ポートフォリオのオリエンテーション、ルーブリックのシラバス導入の試み、クリティカル・シンキングのテストの試験的施行などが展開されました。そして、その総まとめとも言えるアクティブ・ラーニング シンポジウムを11月に開催し、アクティブ・ラーニングを中心とするこれまでの各ワーキンググループの研究結果を学内外と共有する機会としました。

「アクティブ・ラーニング」とは？

文部科学省の用語集では「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」とあります。本学アクティブ・ラーニング・ワーキンググループでは、ボンウェルとエイソン（1991）による「学生たちが何かを行うこと、何かについて考えることを促す教授法」という定義も参考にしています。

アクティブ・ラーニング シンポジウムの開催

「アクティブ・ラーニング（AL）の可視化：将来への展望」

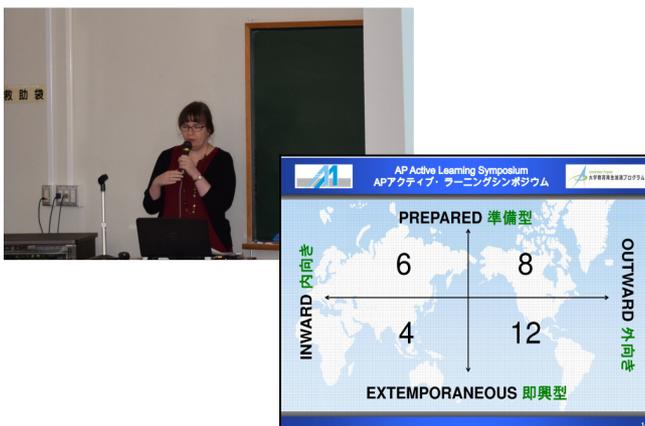
「アクティブ・ラーニングによるクリティカル・シンキング能力開発」

11月28日（土）「2015 アクティブ・ラーニングシンポジウム」が開催され、大学教職員、高等学校や中学校の教員など県内外から多数の関係者が参加しました。

今回のシンポジウムは、永田学長の開会の挨拶から始まり、次にベンジャミン・ピーターズ副学長がその意義について述べました。それに引き続き、アン・ハワード准教授とカタリーナ・モーク講師から、「アクティブ・ラーニングの可視化：将来への展望」と題した発表がありました。この発表は、AP事業を推進するアクティブ・ラーニング・ワーキンググループのこれまでの研究活動を総括するもので、同グループが行った教員へのアンケート調査、授業参観、面接をもとに集積されたアクティブ・ラーニングの教授法を、4分割されたマトリックス図に配置することで、その特性を可視化する手法が紹介されました。



午後のセッションでは、グレゴリー・ダン教授とベンジャミン・ピーターズ教授から、「アクティブ・ラーニングによるクリティカル・シンキング能力の開発」について発表があり、本学で使われているテネシー工科大学が開発したクリティカル・シンキング能力テスト（CAT）の紹介がありました。また、このテストの評価内容を応用した、特定の専門分野におけるクリティカル・シンキング能力を高めるアクティブ・ラーニングの指導法の一部も紹介されました。その後、アクティブ・ラーニングに関する3つのワークショップ、「アクティブ・ラーニングとタブレットPC」（担当：ジェニス・ラスク准教授）、「アクティブ・ラーニングとクリティカル・シンキング」（担当：モニカ・ハムチュック講師）、「アクティブ・ラーニングとe-ポートフォリオ」（担当：デボラ・オチ教授）が並行して開催され、来場者は各自の興味に従い、3つに分かれてそれぞれのワークショップを体験しました。



導入背景:

本学国際教養学部では2005年よりオープンソースの学習管理システムである Moodle を活用していました。今回、AP 事業により eポートフォリオシステムを導入するにあたり、この Moodle と連携でき、同様にオープンソースある eポートフォリオシステムの Mahara を導入しました。これにより、学習の振り返りおよび学修成果の可視化が可能となりました。

導入オリエンテーション:

導入にあたって、まず教員向けに Moodle および Mahara の使用方法についてのオリエンテーションが行われました。これに続きタブレットPCの貸与プログラムを行っている国際教養学部1年生向けにオリエンテーションが数回にわたり行われ、次に2年生、そして教育学部生へと広がられました。学生向けのオリエンテーションは、Mahara の使用方法を学ぶために学生にファイルをアップロードさせ、それをもとに Web 上にの学生個人の Mahara ページを作成させ、Web アドレスを提出させることを目標としました。



クラスでの活用: 情報技術特論

eポートフォリオシステム Mahara の日誌機能を利用して学生は授業内外での学習成果を効率的に記録することができ、結果として学習への取組みが高められました。また学生は課題や宿題をこのシステムを通して提出し、教員がルーブリック(採点基準)に従ってそれら进行评估しました。さらには仮想バッジのオンライン賞与による向上心の促進、レーダーチャートによる学生の取組みの評価などを eポートフォリオと組み合わせるなど、eポートフォリオシステムの効果的な活用法が試みられました。

Mahara を活用して作成されたワーキンググループのページ

平成27年度の主な活動

- 4月 eポートフォリオセンターを設置
- 6月 タブレット端末の貸与を開始
- 7月 eポートフォリオシステムを構築
CATの試験的テストを実施
- 8月 米国でのCAT研修に参加
- 9月 ルーブリック導入オリエンテーションFD開催
eポートフォリオ導入オリエンテーションFD開催
- 10月 学生向けeポートフォリオのオリエンテーション開始
- 11月 第1回アクティブラーニング・シンポジウム開催
- 2月 CATの試験的テストを実施
- 3月 ルーブリック・ベース・シラバスFD開催

平成28年度の主な活動予定

- 4月 ルーブリック・ベース・シラバスの運用を開始
教員向けeポートフォリオ オリエンテーション実施
新入生向けeポートフォリオ オリエンテーション開始
- 5月 タブレット端末の貸与を開始
アクティブ・ラーニングのFD開催
- 6月 MICクリティカル・シンキング・アセスメントテスト (CAT) 開発開始
- 10月 MICCATの試験的運用開始
- 11月 第2回アクティブ・ラーニング・シンポジウム開催
- 1月~ 各ワーキンググループ活動の成果分析の実施